



医学シリーズ (278)
喘息をよくし 治すために

喘息大学学長 清水 巍

278 医師の努力、患者さんの工夫

前号で「温故知新（おんこちしん）」について書き、47年前から城北で使われてきた「カゼの粉薬」について書きました。身近なことであったせいか、地元では、「読んだ」とか「そういえば、そう思っていた」「同感です」などと感想が寄せられました。中には「そんなこと書いてあった？」とか「読んでない」という人もいました。

第14回成人喘息ゼミナールの職員ミニ講演で薬の話をしてくれる「菜の花薬局」の中西薬剤師（喘息の患者さんの評価が高く、評判がよい）に、その話をしたところ、「私も本当によく効く薬と思っています」と語っていました。その薬剤師に「喘息の薬、カゼの薬が城北や寺井のが何故良いのか工夫について」を語って頂きます。

医師や薬剤師の努力、患者さんが色々な薬やを試す工夫の中で「これは良い」と評価して下さること・・・その両者の歯車が一致してこそ、よい医療や治療が作られる1つの典型でした。

では、好酸球性中耳炎についてはどうか？ 喘息、アレルギー性鼻炎、スギ花粉症、副鼻腔炎や好酸球性副鼻腔炎は、城北や寺井では「よくなる方法が確立」されているのに、「好酸球性中耳炎」については、「耳鼻科で」と言われる。耳鼻科では「これ以上仕方が無い。内科でプレドニンを1錠から毎日2錠に増やしてもらったら」等と言われる。どうしたらよいのか？

ある喘息患者さんから、以下のような「お便り」を頂きました。

これぞ、患者さんの工夫であります。副鼻腔炎もあり、毎日、ナサリンで鼻洗浄療法もしていた人ですが、「好酸球性中耳炎のなりかけを、耳の方に毎日の吸入ステロイドを届ける努力で改善させた」という経験です。

ここで耳管と咽頭、中耳の関係の図を見ましょう。（右頁上）

『清水先生の鼻呼出法を応用してみました』 石川 Aさん

私はももとの喘息に加え、ハウスダストやネコなどアレルギーがあるため、時折鼻症状も出ておりました。清水先生から教えて頂いた鼻呼出法を試したところ、アレルギーがあるところでもそうそう症状が出るのがなくなってきました。

そんな折、左の鼻から黄色い膿がしつこく出ることがあり、左耳にも中耳炎のような痛みが起きました。抗生物質を色々飲んだのですが、いまひとつスッキリしない。

そこでレルベア吸入時に「この薬が耳に行けばいいことがあるかもしれない」と思いつき、鼻呼出法の際に『鼻をつまんで耳抜き』を試してみました。（飛行機に乗った際に耳がおかしくなったときにするアレです）

数日行いうちに、耳の痛みが取れ、症状が少なくなってきました。清水先生にお伝えしたところ、少しは効果があるのではないかとということで筆を執った次第です。